

福島第二原子力発電所からのお知らせ（平成28年8月号）

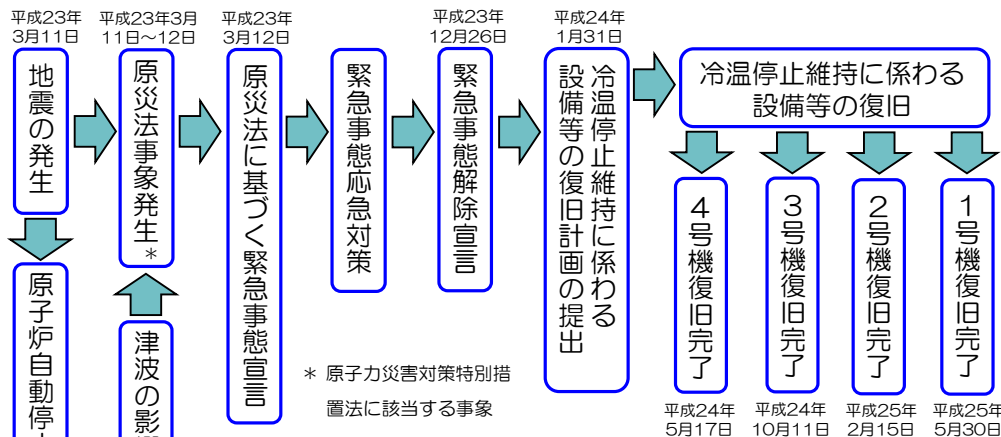
福島第二原子力発電所1～4号機は、燃料の安定冷却を継続しています。発電所の最新状況や、様々な取り組みをお知らせします。

震災後の冷温停止維持に係わる設備の復旧完了までと、現在の安定した燃料の冷却・保管状況について

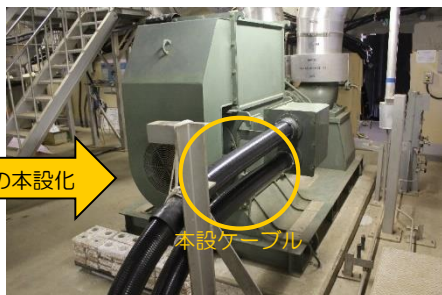
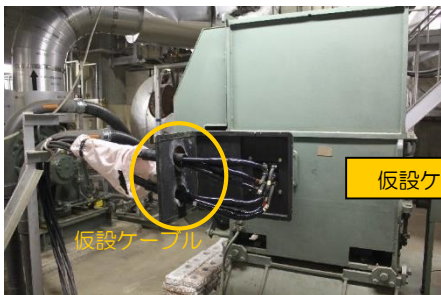
○平成23年3月11日に発生した津波の影響で、燃料の冷却に必要な設備が使用できなくなりましたが、モータの復旧や仮設ケーブルによる電気の供給などの応急対策を行い、3月15日までにすべてのプラントにおいて冷温停止状態へと移行することができました。

○平成24年1月には、1～4号機の冷温停止維持に係わる設備等について仮設から本設備への復旧計画を策定し、翌年5月までに完了しました。

復旧完了までの流れ



本年6月には原子力規制庁により復旧報告書の妥当性が確認されました。



仮設ケーブルの本設化

○震災当時に原子炉内にあった燃料については、平成27年3月までの間に、すべてのプラントにおいて、使用済燃料プールへの移動が完了しました。同プールで一括管理することで、維持・管理する設備の範囲を縮小し、より集中した監視を行えるようになりました。



4号機使用済燃料プール
(平成28年8月24日撮影)

	1号機	2号機	3号機	4号機
使用済燃料プールで保管している燃料集合体（体数）	2,534	2,482	2,544	2,516

○燃料は、原子炉が停止した後も崩壊熱という熱を放出するため、継続して冷却する必要がありますが、停止から5年以上が経過した現在では、崩壊熱は数百分の一程度まで低下しています。

○万一、燃料を冷却するシステムが停止してしまった場合でも、迅速に対応できるよう、設備の充実や緊急時に備えた訓練を実施しています。

<8月23日時点のデータ>	1号機	2号機	3号機	4号機
使用済燃料プール水温度[°C]	29.0	27.9	29.7	28.0
温度上昇率*1[°C/h]	0.3	0.3	0.2	0.2
制限温度*2到達予測時間[h]	120	124	177	185

*1 冷却システムがすべて停止した場合に、1時間で上昇する温度

*2 保安規定で定められた制限温度65°C

新入社員研修も節目を迎え、 新たな職場での活躍が期待されます

- 当所で研修を行っている新入社員59名は、これまでに原子力に関する基礎知識や放射線などについて学んできましたが、現在はより実務に近い知識を得るため、各職場での研修を行っています。
- プラントで使用している水の分析業務の研修や、作業現場、当直員のパトロール業務への同行などで、設備や業務に理解を深めるとともに、作業員や設備に対する安全対策なども学んでいます。
- 様々な研修でスキルアップした新入社員は、いよいよこの9月に福島第二原子力発電所をはじめ各職場へ配属される予定です。



作業と安全対策の現場確認



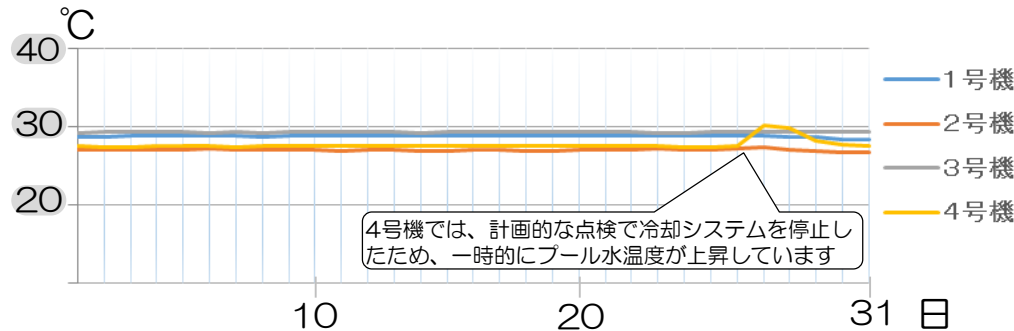
業務についての講義



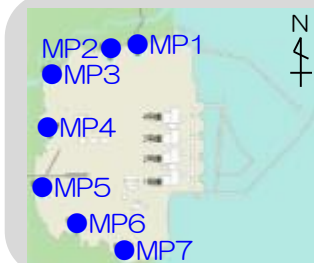
分析業務の研修

燃料の冷却状況(7月分)

使用済燃料プール水の温度は、30℃程度で安定して推移しており、燃料の冷却を維持しています。



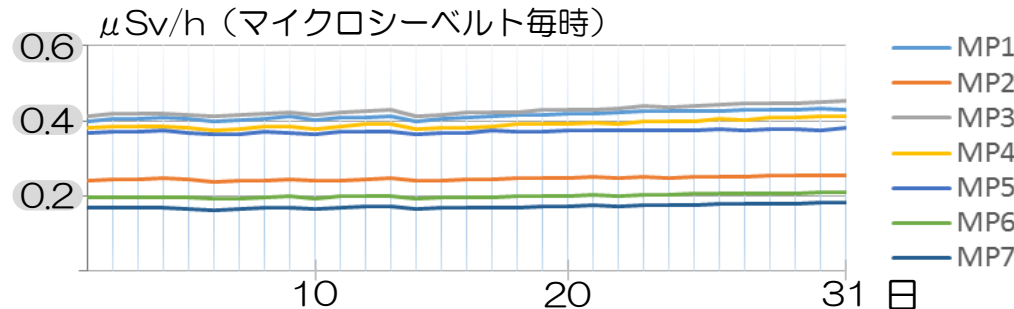
発電所周辺の放射線量計測状況(7月分)



構内に設置している全7基のモニタリングポスト(MP)により敷地周辺における空気中の放射線量の測定を常時行っています。

◇天気と放射線の関係について

空気中の放射線量については、天気によって変動します。一般に、雨が降ると空気中の自然の放射性物質が地表に落とされ上昇します。一方、雨による水たまりや積雪ができると、大地からの放射線が水や雪によって遮られ低下します。



使用済燃料プール水温度やモニタリングポストのこれまでの計測状況については、当所ホームページをご覧ください。

ホームページURL

<http://www.tepco.co.jp/nu/f2-np/index-j.html>

QRコード



福島復興への責任を果たすために、福島第二原子力発電所は引き続き燃料の安定冷却を継続してまいります。

【お問い合わせ】福島第二原子力発電所 企画広報グループ
tel 0240-25-1353 受付時間(平日)午前9時～午後5時